



熊本都市政策

Institute of Policy Research, Kumamoto City
Annual Report 2018

熊本市都市政策研究所 年報

vol.6

熊本市都市政策研究所
Institute of Policy Research, Kumamoto City

IPRK

刊行に寄せて

熊本市都市政策研究所長

農学博士

蓑茂 壽太郎



令和の新しい時代を迎えて最初の年報「熊本都市政策」第6巻をお届けします。熊本市都市政策研究所は平成24(2012)年10月創設のシンクタンクですが、その使命に三つの柱を掲げています。調査研究、人材育成、情報発信で、この3つの活動をバランスよく実施していくことで、小さいながらもきりと光る存在になるよう意識し、市の都市政策推進上なくてはならない存在となるようスタッフの力を結集しています。

この年報に搭載された論文やこの一年間に実施した講演会にも触れながら活動を振り返ってみたいと思います。

まず調査研究活動としては、政令市の熊本市では施策の執行能力だけではなく政策を立案する能力を強く求められていることから、そのヒントとなる研究に取り組んでいます。今年はいくつかの熊本市形成史図集の続編として、都市計画史図集の編纂に取り組みました。全庁的はもとより熊本県庁をはじめとする外部機関所蔵の資料をも収集することで約40項目熊本市都市計画に係る貴重な史料を図面データとして収集しました。この成果についてはいずれ刊行物として公表する手はずになっています。

研究員各人の個別研究としては、政令市への移行で区役所体制ができたことや熊本地震の経験などから熊本市庁舎の改築が話題となる中、これまでの熊本市域に於ける市庁舎や県庁舎の改築移転の経緯を調査研究しました。また生活インフラのストックマネジメントが人口減少社会の到来と相まって話題となる中、熊本市の下水道事業の歴史的な展開をその特性と共に考察しました。路上観察学と称する研究法がありますが、下水道事業の成果を市民が目目の当たりに出来るのはマンホールの蓋だけで、これを市内散策により確かめていくなら熊本市の下水道整備の推移が辿れると言うものです。そればかりかコンパクトシティのヒントが得られると思います。

この研究所は、成果を日常の行政に役立たせる実学研究を旨としています。自然科学的、社会科学、人文科学的アプローチと多様な方法で行政に資する研究に取り組んでいます。行政の新展開となりますと公民連携が大きな課題です。そこで類似の自治体がどのような取り組みをしているかについても調査を実施しました。熊本市をフィールドとした研究を推進する一方で、熊本と比較するにふさわしい都市の研究にも取り組んでいます。また研究や活動の成果を公表することで、熊本市は多くの研究者と識者の注目を集めることになります。そのことで「新たな知」がこの都市にもたらせるというメリットを期待します。調査分析の深度や考察の熟度などにより、研究論文、研究報告などに区別し、また総説や短報、資料等の区分も設けることで有益な成果をタイムリーに届けられるようにしています。なお今号では、市役所の各部署に籍を置く併任研究員が取り組んだ論文を2報収録しました。いずれも現場での課題発見を基に意欲的に取り組んだものです。

人材育成については、この一年間で講演会を4回開催しました。本市がラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界大会の会場となったことを踏まえ、世界規模のスポーツの祭典と地域の活性化について講演会を行い、関連の庁内研修会も開催し市職員がこれに積極的に係わる動機付けとしました。この他に、歴史、風景、グリーンインフラをキーワードとした講演会を開催し、新しい概念が次々と生まれる昨今に時勢を踏まえた研修の機会を提供し学び足しの糧としました。

3つ目の柱である情報発信については、4つの手段を駆使して行いました。一つはホームページ、二つ目は、見開き8ページのニューズレター、三つ目が年に4、5回の割合でのニューズメール発信、そして四つ目がこの年報によるものです。ホームページは年間のアクセス件数が2600件余でニューズレターは15号と16号で発行部数は各号1000部となっています。その他、所員が各種の学会や研修会に参加することで、情報の収集に努めるとともに、熊本市都市政策研究所の存在を全国に伝えています。

熊本都市政策 vol.6

Institute of Policy Research, Kumamoto City Annual Report 2018
熊本市都市政策研究所 年報

目 次

I 研究報告

熊本市域における庁舎建築の動向と時代性	3
研究者 松澤 真由美	
熊本市下水道事業の歴史的考察 -行政史料と市民が目にするマンホール蓋との対応を通して-.....	17
研究者 木村 領	
熊本市の立田山および託麻三山一帯における 1940年代から1960年代にかけての多様な森林利用	29
研究者 市川 薫	
PPP/PFIの実績についての考察～行政改革につながる公民連携～	45
研究者 清原 邦洋	
平成28年熊本地震における主任児童委員による要配慮者支援 ～熊本市内における災害対応・支援活動の実態～	61
研究者 加藤 壮一郎	
災害時義援金募集の実施に係る被害規模並びに報道量の影響	76
研究者 山田 聰亮	
熊本市の初期救急医療体制の構築経緯と今後の課題	87
職員併任研究者 健康福祉局保健衛生部医療政策課 内尾 雅子	
熊本地震（2016）時の産業保健活動の実際と課題	96
職員併任研究者 総務局行政管理部労務厚生課安全衛生班衛生管理室 藤井 可 野口 香鶴美 的場 智恵美 清水 真理子	
PPPによる広島市の学校給食センター（五日市地区）の取組について（短報）	106
研究者 清原 邦洋	

II 共同研究

震災時における都市公園の避難所としての機能のあり方に関する調査	113
公園管理運営研究所	久 富 学
昭和管理センター	松 本 圭 代
熊本市都市政策研究所	加 藤 壮 一 郎
文化財を有する公園における震災災後対応のあり方に関する調査	117
公園管理運営研究所	久 富 学
昭和管理センター	松 本 圭 代
熊本市都市政策研究所	中 村 司

III 講演記録

第 2 2 回講演会 「ラグビーワールドカップ 2019、 2020 東京オリンピック・パラリンピックと熊本の地域活性化」...	123
講師 岡 文 男 氏 (上智大学文学部保健体育研究室教授)	
第 2 3 回講演会 「歴史を観る目・辿る道」	132
講師 高 島 忠 平 氏 (佐賀女子短期大学名誉教授)	
第 2 4 回講演会 「風景から考える社会インフラ」	143
講師 星 野 裕 司 氏 (熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター准教授)	
第 2 5 回講演会 「グリーンインフラを活かした住みやすい都市づくり」	160
講師 福 岡 孝 則 氏 (東京農業大学地域環境科学部造園学科准教授)	

IV 平成 3 0 年度の研究所活動記録

1 組織	187
(1) 組織	
(2) 研究所の機能	
2 調査・政策研究に関する活動	188
(1) 研究フレーム	
① 熊本市域の地域認識、歴史認識の共有化に資する研究	
② 研究員研究	
③ 職員併任研究員研究	
④ 外部研究機関との共同研究	
(2) 庁内各組織の政策立案等調査支援	

3 情報収集・発信に関する活動	190
(1) 年報の刊行	
(2) 研究所パンフレットの作成	
(3) 研究所ホームページの充実	
(4) ニュースレターの発行	
(5) ニュースメールの配信	
(6) 学会等への参加	
4 人材育成に関する活動	193
(1) 講演会、研修会の開催	
(2) 職員併任研究員制度	